夕刊 磐城新聞
一月四日發行
定價 一部金五錢 一ヶ月金六拾錢（郵稅拾五錢）
廣告料 普通欄一行金六拾錢 記事欄一行金九拾錢 五號十二字詰（場所指定一行壹圓）
發行所 磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）

現代の青年は須く眞劍なれ（三）

（十二月二十四日夜於好間村補習學校）

前松佐嘉

すると仁齋先生はそれはよい覺悟だ、それでは潔く死んだがよからう、だが今一度よく考へなほして見よ死んで花實が結ばれるぢやなし川を汚すほか何の取得もない、どうせ死ぬのならば書物のなかへ嵌つて死ね書物と心中する覺悟で努力すれば決して成し遂げられぬことはあるまい、又それほどに骨を折つて成就せぬときは改めて川へはいつて死ぬるも少しも遲くはなからう、と懇々誡められたのであります。そこで徂徠は豁然と悟るところがあつて自己を忘れ專心一途に邁進するに限ると決心して努力奮闘の結果遂に後世にその名をとゞむるほどの學者となつたのであります

明治維新のとき石門口の戰ひで大村益次郎が幕軍を進擊して高津川にいたつた敵は窮餘の一策として橋をこはして逃げて行つた。そこで長州軍は行くに行かれず河に臨んで躊躇する外なかつた大村益次郎がどんなに大隊進め〳〵と命令叱呼しても士官等は隊長は我々を溺れさせやうとさせるのだと不平顏で進まうとしない。そこで大村隊長は更に大聲一喝大隊溺れ――の號令をかけたので一軍忽ち憤怒して先を爭ふて河へとびこみ敵を追擊して大勝利を得たと云ふ擧であります

幸田露伴先生の著『努力論』に『琴絃はその張らるゝに於てたゞ音を發し弛めば則ち音低く、いよ〳〵弛めば則ち音なきに至る弓弦はその張らるゝにおいて箭を飛ばし弛めば則ち箭の飛ぶや力なく、いよ〳〵弛めば則ちその箭の功共に廢す人も亦然り、その氣の張るは則ちその人をして功を成さしむる所以にして、その氣の弛むや功廢し事破る氣の張弛の人に於ける關係實に莫大なりと言ふべし』と言つて居られます、張りつめた心とは則ち眞劍な氣持をいふのであります

如何なる仕事でもよい全力を打込んで、はりつめた心で暮し得る人は幸福であります。その人には隙がないから誘惑もよりつかず病魔も容易に侵し得ない。たとへ世間に名だたる成功はせずともその日常は光明に包まれて刹那々々に喜びを與へらるゝのであります

よく新聞に議會中に議員が居眠りして居る所の寫眞が載つて居りますが國家の大事を議する議員が斯樣な不眞面目では不快を感じます此所にお出になる吉田校長先生のお話をたび〳〵拜聽致しますが熱があつて眞劍味が籠つてゐるので聽きつゝ自然に敬意の念が現はれます。吉田校長先生の如きは眞に國寶であります。親に仕へ會社に仕へ社會人類に仕へんとする者は須らくこの活事實を見逃してはなりません

眞劍な人間は見かけよりも使はれて始めて價値が現はれるものであります。生れつき脊の低い私のやうな者は高くなると云ふ譯にはゆきませんが、眞面目になり眞劍になる事だけは今からでも誰でも出來ます。そして眞劍になつたら皆それ〳〵の程度に應じた成功が得られます。之れ程簡單で確かな成功法は世の中に又とあるまいと思ひます

以上述べました事柄が幾分でも皆さんの御參考になりましたら直に實行に移して頂けば、私の喜びは之れに過ぎたことはありません長々御靜聽を煩したことを感謝して終と致します

轉換期の都市（五）

中野時雄

非常に長く都市農村の問題について書いて來たが、新教育會議での之等は二つの問題となつて現はれた

一、農村に於ける鄕土教育

二、都市に於ける鄕土教育

一に對する解答は、農村其自體の政治的、經濟的、文化的、機構への再認識、即ち社會機構上の如何なる點に農村自體は位するかの識見の發成が基本問題として强調され、その究極的理想形態として、都市解消的意味をもふくめた丁抹の田園都市が相澤氏等によつて提唱された

その直接的方法として福岡の全村學校、朝鮮の卒業生指導學校等が新しい方針として、又以上の問題のより解決的な事實として紹介され、それに對する討議が行はれた

だが何れにしても之等の主要な難點となつてゐるのはカリキユラムの問題である。現在の教科課程が都市中心的、重工商的に出來てゐる際に、この根本的誤謬より訂正してかゝらねば本質的に農村學校としての、鄕土學校としての特色を發揮することは不可能に終る

こゝでカリキユラムに對する意見の發表が、志垣氏によつてなされ、それにフトンの意見の交換が行はれた氏の言ふ所のものを概表にすれば

一、自然科（自然研究、土水、生物等）

二、生活科（衣食住）

三、文化科（歷史、生活及經濟樣式の變遷としての）

四、勤勞科（勞作の分野）

五、算術科

六、讀方科（基本科として）

磐城歌壇

新妻久滿夫選

推薦　萩原たけ

『病みて』（十三首）

○寢たらはぬ鏡のなかの頰の色に、秋の聲きく梧桐の窓

◎神經痛とふ病はつらし臥り居て、あつかひかねぬ身の置どころ

◎苦しさに喘げば悲し目に見えぬ、ものゝ力にたよるたまゆら

◎虫干もなさで臥れば秋晴の、日和つゞくもなしかりけり

◎ジエームス・ダンの音樂會もむなしくして、秋晴の日を水藥のむ

潮聲硯靜抄帳

巨湫

木蘭落葉うずたかくある寒さかな

片岡の芒のひかる冬日かな

村里を遠くに居れと鳴子鳴る

石楠のつぼみをもてる冬の風

伊豆蓮台寺温泉にて

雨山

新松子風添ふ雨となりにけり

新松子觸るゝばかりに傘は往く

新松子疾き雲行と溫泉に仰ぐ

1月5日 ―△正親町天皇崩御（文祿二）△楠木正行四條畷に戰死（正平二）△橫井小楠京都に於て刺殺さる（明治二）△法政大學豫科敎授の暗闘より四十七敎授結束辭表を提出（昭和九）

1月6日 ―△德川慶喜公江戸に走る（明治元）△紡聯協議會印棉不買決議の撤回を正式決定（昭和九）

1月7日 ―△始めて大臣をおき武內宿禰を任ず（成務帝三）△足利義政薨ず（延德二）△朝廷幕府征討令を發す（明治元）△北鐵ソヴエト聯邦側の機關車不法拉致事件の取調べから管理局長ルーディ氏の不法行爲發覺し捕縛さる△米露復交後初代駐米大使ワシントン着任（昭和九）

その日〳〵

ことしも四日――。居蘇酒の宿醉は醒めても門松のおかざりには正月の氣分がまだのこつてゐる。

講談 戸隱奇譚 山の怪秘（76）

丸山寬雄作　眞木浪畫

ちやら銀騷動（五）

平七郎は一刀の柄を固く握りしめた。あたりは未だ火事場の混亂、名狀すべくもない。町火消しの掛聲、彌次馬の騷音、棟の燒け落ちる音

『にいツ』

手具脛ひいて待構えてゐた彼の眼前へ眞つ先きに擔いで來た奴を腦天から。つゞいて來た次の奴、次の奴石燈籠の蔭までくると、云ひ合せたやうに反けぞつては倒れる。終ひの一人が見る見る足許に倒された仲間を認めた

『うぬツ！』

擔いでゐた千兩箱をする〳〵と下して、腰の一刀に素敏く手をかけると、すかさず手許へ斬り込んで來たのを、平七郎やつと猿臂を伸ばした。片手毆の美事にきまつて對手は血煙りと共に倒された

平七郎、すごい笑ひをニッと浮べて血ぶるひした。と程遠からぬ黑板塀の裾に數人の黑い影がうごめいてゐる。どうやらこれも吉田屋から盜み出した大長持。それを數人寄つて板塀を破つて運び出さうとしてゐるのだ

『まだ、居るなツ！』

平七郎飛立つやうに植込みを出て、長持を圍んでゐる黑い影の群に忍び寄る

『曲者！』

鋭く叫んで刄を一振り、ギラリと暗に光る

『うわッ！』

もろくも曲者は長持をそのまゝ姿を消した

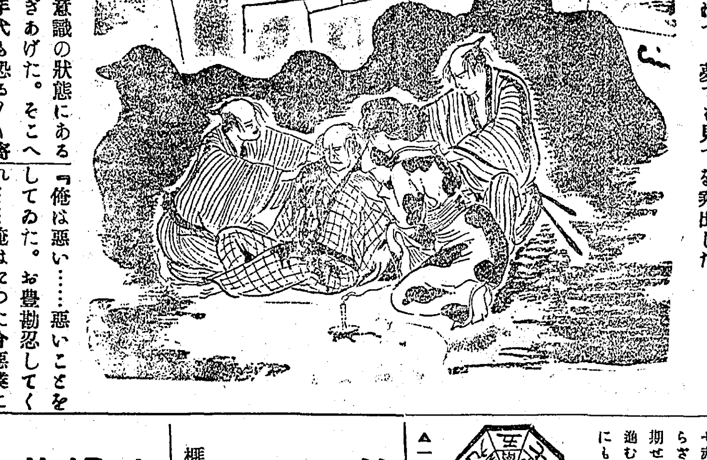
平七郎ホッとして長持に近よると、かすかに苦悶するうめき聲がする

暗がりをさぐつてぐつと蓋をあけた

そこには財寶に埋まつて猿ぐつわをかまされたお豐が居たのだ

『お豐どの、お豐どの、しつかりなされい』

平七郎は猿ぐつわを解いてから、背中に膝頭をあてゝ活を入れて、夢でも見て



ゐる半無意識の狀態にあるお豐を擔ぎあげた。そこへ見張りの手代も恐る〳〵寄つて來た

『おう、よい處へ參つた。それ、お豐殿を……』

『孃樣――しつかりなさいませ。助かつたのでございますよ』

手代は、お豐を横抱にゆすぶつた

『御主人は……』

『はい、あの穴藏へお隱し申しました』

『うむ、ではそれへ案內を……』

そこには既に、穴藏に逃げ込んでゐた丁稚の一人が臆病さうに穴の蓋を支えてゐた。眞つ先に手代、次に疲れなれたお豐の姿が吸ひ込まれ、次に平七郎、最後に丁稚が蓋を下した

一道具や、酒樽が隅の方に雜然と置いてある。中央の箱の上には蠟燭が心細い燈光を投げてゐる

粗末な蒲團を敷いて、伊左衛門が死人のやうに横たはつてゐる

平七郎はその側へ近づくより早くその死に瀕してゐる事を直覺した

『お父樣、お父樣』

お豐は、その腕首を摑んで覗き込んだ

伊左衞門は伏目勝ちに瞼をあげた。瞳は最早死色を呈してゐた。觀念の相貌である。平七郎は座り直して眼を蔽ふた

『娘、刈馬どの』

お豐も平七郎も思はず肩を乘出した

『俺は惡い……惡いことをしてゐた。お豐勘忍してくれ……俺はたつた今惡業に氣がついた……』

『まあお父樣……』

『刈馬樣……』

『平七郎は此處に居ります！』

『おゝ……不思議な御縁でございました。一人の身寄りもないお豐、お豐を何分……御たのみ、申します』

苦痛の中に云ひ終ると伊左衞門はがつくりと再び眼を閉ぢた

五日（小名濱測候所調査）

日出	六、四七	月出前	六、四五
日沒	四、三七	月沒後	四、三二
滿潮	前五、一五 後二、五〇	干潮	前九、五〇 後一〇、四〇

六日

日出	六、四七	月出前	七、三五
日沒	四、三八	月沒後	五、四八
滿潮	前五、五〇 後三、四五	干潮	前一〇、四五 後一一、三〇

七日

日出	六、四七	月出前	八、一七
日沒	四、三九	月沒後	七、〇四
滿潮	前六、二五 後四、四〇	干潮	前一〇、一〇 後一一、三〇

諸判定處常 東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部

舊十二月一日 土曜 新一月五日 辛巳 赤口 執 柳宿

▲一白の人 今日を安かれと不滿を起さず辛抱するが吉▲二黑の人 內外共に滿足を得る日交友訪問幸慶を招く▲三碧の人 理想の計畫に進出するに善き日但病難注意▲四綠の人 大發展を遂ぐべき日なれど才智に誇るは凶▲五黃の人 奮發すれば他よりの引立と共に繁榮を見る▲六白の人 家業大事と他念なければ過ちなし盜難注意▲七赤の人 努力した程に成績は揚らざるも倦怠するな▲八白の人 期せずして物事の捗る日油斷なく進むべし▲九紫の人 些細の動きにも注意して他事を心に掛るな

舊十二月二日 日曜 新一月六日 壬午 先勝 執 星宿

▲一白の人 八方へ手を出す時は一方も滿足にならぬ日▲二黑の人 目上の者と意見の合はざる事起りやすき日▲三碧の人 意外の幸運に見舞はることあり進みて吉▲四綠の人 氣を和らげ長者を敬すれば其引立てを受く▲五黃の人 心定まり內整へば出來事は憂ふるに及ばず▲六白の人 午前の苦は一時のこと午後の樂となるべし▲七赤の人 我意を通さず萬事目上の人の言に從へば吉▲八白の人 甘言を以て誘ひ來るとも決して乘ずべからず▲九紫の人 虛榮の爲に徒勞し業務に怠りを生じ易き日

舊十二月三日 月曜 新一月七日 癸未 友引 破 張宿

▲一白の人 人に知れざる苦みのひそみ居る日進む時凶▲二黑の人 內を調ふた先にすれば外は自ら順に行くべし▲三碧の人 高樹には風多し兎角根元に注意せらるべし▲四綠の人 人より持込む相談事には口舌を生じ易き日▲五黃の人 外に飛び廻らずとも內にありて十分發展す▲六白の人 成就すること希望以上に達する幸福日たり▲七赤の人 今日始めたる事業は永久に亘りて榮ゆべし▲八白の人 平凡の中に自然の幸福を藏する吉日となす▲九紫の人 燃る如き熱せいを以て進めば諸事通達すべし

銘木ト建築木材ノ御用命ハ今一番勉强スル當店へ
平町紺屋町
內外銘木 建築材一式 便利瓦
棰優良材碁將棋盤アリ格安讓リタシ。
織田材木商店 電話四六〇番

產科 婦人科 花柳病科
午前宅診 午後往診 入院應需
井坂醫院 平町田町（元合津醫院跡） 電話五五九番

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門 X光線科
平南町 上田醫院 病室完備（電話一二九）

耳鼻咽喉科專門
平町南町一六番地
大和田醫院 電一七〇番
（入院隨意 病室完備）

高久病院（電話五三一番）
平町田町
內科 小兒科 外科 花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽濟
藥劑士 佐竹雄

耳鼻咽喉科專門
平町田町（電六九一）
病室完備 自炊ノ便アリ
醫學士 山內亨吉
山內醫院

夜間診療
胃腸 性病
內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科 專門
松村胃腸性病科醫院（平町南町電一〇一七番）

貸切の御用命は「尼子タクシー」へ
六四〇番 御願致します
長距離は御相談に應じます

氣管、食道科、耳鼻、咽喉科、專門
平町南町（元眞木辯護士跡）
增田耳鼻咽喉科醫院（入院隨意） 電話四八二番

貴方の御家庭に
お手不足は御座いませんか
本會を御利用下さい……直に家政婦を派出します。
親切叮嚀……料金は極めて低廉です
姙產婦の御家庭 御病人の付添 炊事や雜用 お留守居番 年寄やお子さんの付添
平町紺屋町二（電話二二）
上原家政婦會 會主 產婆 上原通子

川中子百年の對策に 好間川流域變更計劃
地元の陳情に當局幾分聽從

好間村大字川中子部落（平町城山北部）は夏井、好間の兩川間に介在し、若し好間川護岸工事の竣功後は平町都市計劃の完成に於て彌々諸事の交渉頻繁なるにも拘らず、同川に依つて完全に交通を阻止される事になるので同川沿岸部落有志六名は地元新井町議と共に舊臘末町役場に對し夏井川流に最も接近した好間村關の上地內より好間川を夏井川に合流せしめ同部落より川中子部落を經て同村廳現塚地內夏井川合流地點に至る好間流域の埋立方を陳情した、町當局ではこれが埋立により川中子部落の灌漑に支障を來す虞れもないので直に一同を伴ひ夏井川改修事務所に交渉した處同所に於ても同樣方針で測量を進めて居るが只地域の高低關係によりこの流体を變更しても夏井の水が好間川に逆流する懸念もあるので關係者から可なりの關心を拂はれてゐると

著々實績を擧げて 更生を辿る入遠野村
諸般の改善事績顯著

入遠野村では昭和七年度經濟更生村の指定を受けて以來擧村一致の五ケ年計劃を樹て五ケ年後の一戶當り生産收入百圓以上增加を目標として農業實行組合を主体とし男女青年團が活動し苗代の改善、驅虫、通苗代の廢止等の實績を擧げ、大小麥、菜種の二毛作の試培成績著しく之等の共販、自給肥料の增殖、堆肥奬勵、養雞、養兎、畜牛、漆樹組合等の副業創設、森林愛護組合の組織、蒟蒻に耕作の大半を占められ從來年二千圓以上であつた蔬菜移入を母の會、女青團等により之が自給自足の域に進めた等々著々その實績を擧げてゐるが就中く生活改善の響應接待廢止上禁酒會を組織し現在會員六十二名あり、昨年四月以降の禁酒貯金現在三十圓を突破するに至つた

この事が村民一般を刺戟し會員は漸次增しつゝあり人心頓に緊張してゐる

理髪組合總會 平署

管內の理髪業組合定期總會は來十日午前九時から平署會議室で開き決算報告及組合長以下の役員改選を行ふと

鎌田分團改選 平町

鎌田青年分團では元日午前九時から常集會を開き分團長山崎信義、副團長鈴木傳吉兩氏以下の役員改選を行つた

◦◦◦◦◦ 福炭採掘許可　赤井村福島炭鑛會社出願に係る同村及び上小川村五十五萬七千二百坪に亘る石炭採掘は此程許可になつた

話するさへ男は厭 迚も勤まらぬと
若い藝妓の自廢願

小名濱町新米事永山もりね方抱え藝妓政子事渡邊村生れ遠藤よし（一八）は去る七年春前借百五十圓で前記へ見習として住み込んだが、同人は單に言葉を交すさへ厭だと云ふ程の男嫌ひで藝者には最も不適當な質なので綺麗さつぱりその商賣から足を洗ふべく昨年九月東京の叔母が若干金を調達し同人を引取りに來たが、前借金が嵩んで意の如くならず爾來心にも無い勤めを續けて來たが到底遣り切れ無くなり、昨三日同家を脫けて平署に出頭身の振り方を訴へ出た

江戸情調も豐かに 平消防組出初式
梯子乘りに全町賑ふ

平消防組の出初式は例年の如く今四日午前八時組頭約百五十餘名が平署前に集合點檢後九時半からこれを三班に分け勇み肌の梯子登りに全町を練り歩き、午後一時からは仲町元博覧會跡に於て摸擬火災演習、風船玉落しの水勢腕技を行ひ、終つて同二時半より聚樂館に於て新年の宴を張り萬歲三唱裡に閉會したが表彰者左の如し

◎永年勤續表彰者（三十ケ年）部長岡田政次郎（二十五ケ年）消防手宗像國治（二十ケ年）伍長阿部治作、同菊田萬吉、消防手辻金太郎、同大野松之助（十五ケ年）高野淸一、今田義惠、藤田專吉、鈴木定一（拾ケ年）伍長門馬淺次郎、吉野金吉、八木政吉、坂本信義、鈴木德義、蛭田淸、菊地竹雄、柳原德造、松崎鐵太郎、柳內金治、木村勝右工門、古田部義雄（本期間精勤表彰）佐藤正巳、水竹伊助、山崎孝平、菊地交見、仲井正成、阿部正吉、舘久治、岡島和助（退職者）柏原幸次郎、片寄敬太郎（本期間精勤表彰）團体略信號係水竹伊助外七名、物見ケ岡稻荷社司、平局交換手

◎永年勤續者（三十五ケ年以上）小頭高根澤長太郎（三十ケ年以上）伍長涌井乘作、同根本宰次郎（二十五ケ年以上）部長鈴木長三郎、消防手古山吉之助、小頭田中宜治（二十ケ年以上）部長鈴木彌太郎、小頭三井富吉（十五ケ年以上）小頭佐川三良、同正木廣造、伍長織田萬次郎、消防手岩本淺吉、伍長金成泉一郎、消防手小河原壽雄

賀狀增加八萬餘
從來以上忙殺された今正月の平局

客臘二十日より二十九日迄取扱つた平局の特別扱年賀郵便數は
引受　三六〇、二九九
繰越　五六三、三七七
計九十二萬三千六百七十六通で前年に比し二萬二千七百二通を增し、尙期間後昨三日迄（通常とも）は
引受　一六八、八一四
配達　四三七、五九三
繰越　八二一、〇六七
計百四十二萬七千四百七十四で前年に比し六萬三百三十通の激增を示し居り特別取扱開始以來の賀狀總數に於ては八萬三千餘通の增加で尙賀狀の往來は四、五日間は絕えないと

◦◦◦◦◦ 無意味な八百圓 町民間の賀狀交換

平局に投函された賀狀は取扱期間中丈けで六萬九千百四十九通で昨年より一萬八千四百四十四通多くこの中約八割は平町內を往復してゐるとあるから最少限度八百圓以上の金が意味の無い浪費にフツ飛んだわけ、豪勢な三五年の新春ではある

年賀電報發著五百
完全に期待を裏切つた 驚異的成績の平局

今年最初の試みとしてその結果に興味をかけられて居た年賀電報の平局扱ひは發信百着信五十の豫想を裏切り發信三百二十二通　着信百四十通の好成績を示したが尙明後六日の期間迄には幾分增加するものと見られて居る

宛無し賀狀 平局に百卅七通

平局年賀狀中轉居轉送五千八百四十三通轉居先不明料金不足等の返却二千四百十六通に達して居るが同局引受の中そそつかし屋の名宛洩が百三十七通あつた

◦◦◦◦◦ 吉岡檢事出發　盛岡區裁地方檢事に榮轉の平檢事局檢事吉岡述直氏は明後六日平發午後二時十五分磐越線經由で赴任すると

◦◦◦◦◦ 妻から捜索願　山形縣西村山郡三泉村字中河原二三一左官輕部寅藏（三四）は客臘二十六日商賣不振から妻子四人を置き家出し最近內郷村宮澤內七年會で勞働中の旨便りした丈けで送金もせず前後四回に亘る書信にも更に返事がないので今四日妻つねよから監獄部屋にでも酷使されてるではないかと同人の捜索方を願ひ出た

給仕二名募集

十五六歳身体强健の者自筆履歷書携帶希望者至急來談あれ　本社

死亡は低學年に多い
最近の調査に係る 第二校の五ケ年統計

平第二校では此程最近五年間に於ける在學死亡兒童數を調査したが

學年	四年	五年	六年	七年	八年
尋一	四	二	三	四	三
二	二	一	｜	三	二
三	一	一	｜	一	｜
四	一	｜	一	一	｜
五	一	一	｜	｜	一
六	｜	｜	｜	一	｜
高一	｜	｜	｜	｜	｜
二	一	一	一	｜	一
計	一〇	六	五	三	七

で合計一年十六、二年八、三、四、五年各三、六年一、高一零、高二年四で低學年の死亡率高くその最大原因は家庭生活から學校生活に入つて受くる精神的影響が生理上に及ばし一面自由な生活から變つた束縛生活が抵抗力の弱い兒童を冒すらしく殊に虛弱兒の親は入學後一、二年間は保健上餘程注意を要すると、尙は之等低學年兒童の死因は急性の呼吸器系消化器系の病氣で冬期春先期が最も多く感冒に併發する肺炎、腎臟病、中耳炎等が大部分を占めてゐる、右に就き學校當局では左の如く語つてゐる

兒童は輕い感冒や自覺性狀の少い腎臟病等に罹つてゐる場合一向平氣で居る中惡化させるが多い、食量の變化、又は氣分の勝れぬ樣な時は体溫、脈搏、呼吸等に注意し、若し異狀ある場合は學校を休ますべきである、精勤賞がほしいとか、鍛錬の爲だとか無理をさせるなどは以ての外である、本校では死亡兒童の每年春秋の彼岸に墓參をしていたいけな靈を慰めてゐる

土工の死に疑ひ
正月酒の喧嘩が因か？ 當局事件を重大視す

江名町永崎牛井飯場方居住新潟縣東蒲原郡日出谷村大字光澤生れ土工五十嵐吉次郎（四七）は舊臘廿九日夜腹痛の爲床につき加療中去る二日死亡三日同地共同墓地に埋葬したが平署では膀胱カタルとあるが死因に疑ひを容れ內偵の結果同人は發病の當日午前十一時頃同町永崎酒店遠藤貞彦方で同町木賃宿布施倉吉方居住東京市城東區亀戶町五ノ一六二生れ土工鈴木梅吉（三三）と會飲中喧嘩となり同人の爲下腹部を蹴飛ばされたのが主因らしいので昨三日渡部司法主任以下數名が同地に急行實狀調査の末吉次郎を傷害致死罪として本署に引致死亡診斷書を作製した醫師は依然膀胱カタルと主張してゐるので平檢事局でも事件を重大視し死体を發掘解剖する事になつたと

內鄉政友青年會創設
昨日盛大に發會式

客臘來計劃中であつた內鄉政友青年交友會發會式は昨三日午後五時から、綴驛前內鄉館に於て開催したが出席四十數名、草野法學士の開辭に次いで鈴木代議士の非常時局談あり、同氏の上京出發後會則の制定、會長圓谷淸氏以下の役員選擧を行つて宴に移り盛況裡に八時散會した、因に同會は月一回會合の上諸般の協議打合をなすと

郷土の史的時事解說（二）
白水阿彌陀堂の第二回修理
本堂宇の特別保護建造物並に內塡安置三佛像國寶各指定に就て（八）

勿來生

然るに當時、養父眞衡の居館はどこであつたかは分明しないが、其の先祖等の住んだ出羽國仙北郡ではなく、按ふに陸奧國に屬した彼の岩井郡衣川館（阿倍賴時、貞任父子の舊址）であつたと想はれる。入婿以來全く成衡の義叔父となつた藤原淸衡以下泰衡に至るまで奧州藤原家は平泉に勢居するや、此の館は乃ち衣川關の要內に置かれて、遂に賴朝の東伐に哀れなる名殘りを止めた有名な古跡であつた。成衡夫婦は眞衡の頓死前後は一時此の衣川館に住居し、兄の義家が後三年役に來るや直ちに迎へて其の臣に屬したのは史實に明瞭である

又後三年役の頃、岩城郡に住んでゐた淸原武衡は眞衡の叔父に當つてゐるが、此の者は義家に誅された。然るに岩城郡には成衡の實父平權守安忠も其の前が同時に住んでゐた外、德尼の實家常陸の多氣氏等のことまでも樣々に關係して仲々復雜な經路を有つてをり、乃ち成衡又は其の遺族は終ひに義家から岩城郡を賜ふて永く居住するに至つた前後の考察は、今此に一寸では語られぬから、何れ他日改めて詳述することにして本論には必要のみを摘述することゝする。但し從來の郷士史や岩城系圖、岩城地方の諸社寺緣起などに見る岩城氏の記傳は、千遍一律の作簟で、殆んど史實と合はぬから信ずるに足りぬのは云ふまでもない

五、造立は平安季世より鎌倉初期の間

由來、國史上に云ふ藤原時代とは、大略平安朝の淸和天皇より白河天皇の御世に至るのを云ひ、殊に本邦の美術、工藝等は此の時代に入つて大いに進んだのは三節で少しく既述したが、其れが漸次支那大陸の輸入模倣を脫がれて獨立の域に入り、遂に我が國獨特の發展を見るに至つた。因つて藝術史上特に斯の時代に成れる其等の樣式に對して『藤原式』と名づけたのである

藤原氏の祖鎌足、不比等の父子以來、彼等の子孫は朝廷に益々重望、勢力し、攝政、關白などの職に陞り且は代々佛敎を深く信じ大伽藍、堂宇を盛んに造立したので次第に是の術が進んだ。其の子孫で攝關の賴道が建てた山城國宇治の平等院の鳳凰堂の如き、奧州平泉の藤原（原姓は亘）淸衡（元より奧州人で、京都の藤原氏とは血緣の關係なし）の建てた中尊寺や金色堂の如き、今尙ほ存して共に當時に於ける東西の之が代表建築であつた

◇——◇——

新年文藝

新年雜詠　渡邊武門

テラ〳〵と初日に光る椿哉
揚舟の中より初日拜みけり
赤ん坊の名も書き添へて年賀狀
羽根突くや日當り初めし分讓地
羽根突く子凧揚ぐる子や分讓地
內海の波紺青に初凪げり
年賀狀俳句中間が八方に
初凪ぎの波に鷗はたゝらふむ
初日影かべにかけたる世界地圖
初日影藥家つゞきの漁師町

好間　寒山子

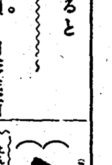
海島のまばゆき波や初凪げる
神杉の根におろがめり初日影
礦山電車にぎやかに行く初詣
坑口の注連祝ぎまつる老坑夫
かゞやかに初日當れり閼伽井嶽
神杉のふとしきたてり初詣
炭竈の前におろがむ初日影
新年のしずけさにゐる礦山の町
初凪げる岬尊くなりにけり
太柱はの〳〵立てり初竈

田町　新妻一來

無雜作に付けてありけり初荷札
筆太く書かれてありぬ初荷札
初荷皆紙旗さしてありにけり
荒繩の結びも固き初荷かな
トラックに山と積まれし初荷かな
新春の顏をカメラに納めけり
霜柱門より崩れ初めにけり
初夢やボマード泌める枕かけ
初夢や枕ならべて親と我
書初めに手慣れし筆を洗ひけり

大和田孝勝

一幅の虎の掛軸や福壽草
若水の溢ふるまゝに汲みにけり
若水や引き絞つたる跳釣瓶
初夢に折々吾子の微笑みて
初夢や床に飾れて寶舟
初夢やしばしまどろむ宿直室
初夢路深山の櫻咲き初めて



艷罪黑白（えんざいくろべちや）

◇ぼたん勇退後の久本では之れが補充の爲盛に綺麗處の物色に腐心し金に糸目をつけずどん〳〵輸入してゐるが元日早々お披露目した久松（半玉）や玉子なども例の方の發散に申し分無く正月氣分を滿きつせしむべく充分なものがあると◇町の正月情調を百パーセントならしむるものは何と云つても新田町美形の年始廻りだ、黑白子の目に止まつたの丈けでも山形家の小歌、いろ子小浪。中家のかつら、小淸、なか子。三島家の奈子、百助、君枝、千成。武藏の小つや、與太郎、小櫻。久本の久子、久菊、久代など久の字オンパレード等々◇序に食ひけの方で云ふとサナヤの江戸川洋食のマルトモ食堂なども各方面に手拭を配つて35年のごひゐきを願つたとある

○——○

謹賀新年
川村源市
東京市京橋區銀座西六丁目二番地
電話銀座四三〇二番

賀正
好間尋常高等小學校
校長　吉田庄太郎
外職員一同

賀正
內郷村　日野炭鑛主
日野定利

賀正
柏原幸次郎

謹賀新年
會舘ファンの皆々樣
舊年中は絕大なる御後援を賜り有難く御禮申上げます。本年も尙ほ味廉價の奉仕に努力仕ますれば倍舊の御引立偏に願上ます。
三丁目　平會舘
館主　高田マサ
調理部　今成鐵一郎
染子、かほる、愛子
元子、照子

産科　婦人科　外科　藥局
院長　木村寅次郎
醫學博士　內木宗八
藥劑師　玄番彌一
入院隨意　病室完備
平町新川町十九番地
木村病院
電話一六四番